
東方執事物語

ダン・ボール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方執事物語

【Nコード】

N1458Z

【作者名】

ダン・ボール

【あらすじ】

この物語は古来よりスカレット家に仕える一人の執事が主人公の物語である。警告この物語には、ハーレム、オリ主、原作無視、キャラ崩壊、オリ主マルチチート、作者、文才チリ以下、更新バツラバラ、等が含まれております。あー、俺には無理、と思った方はバツクをお勧めいたします。まあ見てやる、といった心広い方は使用上の注意を読み用法を守って、気長に、正しくお読み下さい。・・・警告は・・・しました・・・よ？

執事プロフィール(前書き)

とりあえずは紹介です。

駄文ながらこれからよろしくです

執事プロフィール

名前

アレス・スカーレット

性別

男女両方

ランダムで変わる。1日経つと変わることもあれば、1週間以上経つても変わらないこともある。

年齢

紫よりは間違いなく上・・・

能力

男の時

あらゆる武器を扱う事ができる程度の能力

女の時

あらゆる能力を無効にする程度の能力

外見

男は髪、目、ともに美しい青色、男の娘

セミロングで後ろで纏めている

女は髪、目、ともに美しい真紅

ポニーテール

その他説明

性格はDSで冷静でノリが良い。

家事はなんでもござれ、知識も豊富。

一時期幻想卿から出ていた。理由はまたいつか・・・

恋愛にはそれなりに鋭いが、確信するまでが長い。
ようは気付いたのはいいが、もしかして違うかも・・・と考えたり
してかなり遠回りする。

執事プロフィール(後書き)

もう何も言つまい・・・

すいません、やっぱり一言・・・やりすぎた感が・・・

第一節 執事の日 前編（前書き）

一日が始まるみたいです。

クリスマス・・・さびシマス

第一節 執事の日 前編

皆様、こんにちわ。

偉大なる主、レミリア・スカーレットの執事、アレス・スカーレットでございます。

え？スカーレットって名前あるのになぜ執事なんかしているのかだつて？

まあ、いずれお話ししよう、ええ、いずれ。

さて、そうこうしてる間にお嬢様が起きられたみたいですよ。

え、なんでわかったか？

・・・慣れ？

まあ、なんでもいいでしょう。おや？どうやら私も御呼びのご様子。一日の紹介も兼ねていきますか。

執事移動中・・・

「遅い！！」

いきなりですねお嬢様、慣れましたが・・・

「遅いと申されましても、私には咲夜みたいに時を止める能力はありませんし……」

「そんなもの関係ないわ！呼んだら1分以内に来なさい！」

「ですが、お嬢様、この館は肝心の主ですら迷うようなところ、それなのに私めが迷わずに来るのは厳しいかと……」

「なっ！？ま、迷ってないわ、さ、散歩しているだけよ！」

「ほう、最近の散歩は咲夜と泣き叫びながらするものなのですか、勉強になりました」

「えっ、いやっ、あれはっ、その……うっ、咲夜っ！」

相変わらず楽しいお方だ、ついでに泣き叫んでいたのは昨日のこと。そんなことを思っていると、咲夜が苦笑しながら、涙目のお嬢様を慰めている。

「相変わらずですね、アレス様」

「まあね」

楽しくてやめられません、お嬢様いじりは。

さて、今だ涙目のお嬢様は咲夜に任せて、フラン様を起こしに行きますか。

「咲夜、私はフラン様を起こしに行くから、お嬢様をよろしく」

「わかりました」

「うっ……」

そんな目をされても怖くありませんよ？

では、移動移動……

執事移動中……

さてさて、まいりました、地下室。

そういえばまだパチュリー様にお会いしてないですね

ああ、今日はおかけると言っていましたね。喘息がひどくならなければいいのですが……

まあ、とりあえずは気にしないでおきましょう。

まずはドアを開け確認を……

一つ目、部屋の雰囲気確認……よし、普通。

二つ……ん？その確認はなにか？昔起きた事件を機に私がするようになった事です。

あれはすごかったですね、なんせ妖精の死傷者数（消滅か？）が半端ないことになりましたから。

それにお嬢様や、咲夜、美鈴、パチュリー様、私とフルで出撃しま

したし。

さらにすごいことにその全員が大なり小なりと負傷しましたし。その中で運よく私がかすり傷で済みましたが・・・

あ、そういえば、この事件の理由、言ってますね。簡単に言いますと

お嬢様がフラン様を起こす　フラン様たたき起こされ超不機嫌　姉妹喧嘩　喧嘩による狂気解放　大乱闘

以上。

まあそんなこともあり、こういう確認するようになったのです。

・・・とはいっても2つくらいですが。

二つ目・・・これは身体にダメージがあるからとても、非常に重要である。

それは「おはよー!!!」「ぬおおおおおおお!!!」

「おはよう、アレス!!!」

「は・はい・・・お・おはよう・・・ござい・・・ます」

これが理由である・・・ときどきフラン様はこんな風に抱きついてくるのです。

ただ、普通の人間ならそんなに痛くないし、多少よろける程度ですが、フラン様はあの吸血鬼・・・差は歴然である。

それにこの方は力加減がまだうまくできません。おかげでこのざまです。・・・私、妖怪でよかった。

それと二つ目の確認とは・・・もつわかりますよね？
周囲に隠れていないかの警戒です。

さて、確認も終り、腰の痛みも引いたし、腹の上に跨っているフライン様を降ろしますか。

・・・ああ、また美鈴に壁の修理頼まないと。

ついでにこれで5327回目ですね。

「フラン様、少しは加減してください、いずれこの腰が潰れてしまいます」

「ん~~~~・・・がんばってみるね!」

ついでにこのやり取りは5301回目。

「お願いしますよ・・・それはそうと、朝食ができていますよ」

「はーい!」

まあ、この可愛らしい顔を見れるなら安い・・・か？

第一節 執事の日 前編（後書き）

もうちょっとマシにしたいですね・・・
スキー行きたいなあ・・・

執事の日 後編(前書き)

散歩行く ネット浮かぶ 気分最高 うまく書けない、表現できない

orz
ループ

まさに負の連鎖。しっかりしろよ、書けよ、やれよ俺・・・

執事の日 後編

皆様こんにちわ、初めてのの方は初めまして。

前回腰がいろんなことに使えなくなりそうになった、アレス・スカ
ーレットです。

では、さっそく、行ってみましょう。

執事移動中・・・

やってまいりました、紅魔館名物(だと思えます)ヴワル図書館。

え？お前食事はどうするんだって？私はあまり食べません、てい
うより食べなくても大丈夫なのです。

それにここは私の警備するところなので。

なぜ警備する必要がある「突撃ー！ー！ー！」・・・ほらね？さて、
今日もぶっ飛ばしますか。

「今日こそはアタイが倒してやる！」

この子は散るん、んんつと、チルノです・・・ん？今のはなに
かかって？まあ、見てればわかりますよ。

「また来たのですか、散るん、じゃなくてチルノ」

「ふふん、勝つまで何度でも来るわよ、だって、アタイ最強だもん
! ! ! ! !」

「……そんなに薄いものを強調しなくても……どことはいませ
ん、ええ。」

「チ、チルノちゃん、やめようよ〜」

この子は大妖精、または大ちゃん、苦勞人です。

「……相変わらず大変そうだね」

「い、いえそんな!こちらこそいつもすいません! ! ! !」

ああ、なんて真面目な子なのだろう、あとで、飴ちゃんをあげよう。

「さあ、羊、勝負よ! ! ! !」

「羊ではなくて執事ですよ」

だから?と言われるんですよ。

「そ、そんなのどうでもいいのよ!!--いくわよ!!--」

あ、そろそろ、時間が・・・面倒ですね。ここは漫画でよく使われる伝家の宝刀、バット!!--を使いましょう。

「申し訳ありません、散るの」

「なんか名前が違う気がするけど・・・何よ」

「時間が来てますのでお帰りいただきますね」

「え?」

さて、対散るの、じゃなくてチルノ用のスペルカード、いきますか。

「伝家・・・」

「え、ちよっ」おかえりください散るの!」「名前違っっっっっっっ
う!!--!!--!!--(キラっ(」

ふっ、今日もつまらぬ者を打ってしまった。これで打点は2401
打点です。

「あ、チルノちゃんーん、待ってーん！！！！」

あ、飴ちゃん・・・まあいいでしょう、また来た時に渡せばいいでしょう。

「・・・次、いきますか」

本日の警備は今ので終了ですし。あっ、あとさっきのスペルにはもう一つ別のあるですよ。

まあ、あまり名前は変わりませんがね・・・その名も伝家「お帰りくださいお客様！」です。

あ、どうでもいいですね、そうですね、じゃあ行きましょうか。

執事移動中

次の場所は・・・自室です。

なぜ自室か？・・・それは、待機のためです。

まあ、要はしばらくやることはないのですよ。

本来ならさらにすべきこともあるのですが、お嬢様が

「あなたは本来執事ではなく当主なのだからそんなものしなくていいのよ！！」

だそうです・・・。

まあ、確かに本来血が繋がっていたら、ですけど。そのことを申しますと

「そんなことは関係ないのよ!」

だそうです。それでも私が渋るとお嬢様が折れて

「わかったわ、やらしてあげる。でも!!あなたは本来私たちの兄であり、スカーレット家の当主、そのことは忘れないで!」

とのこと。

それから執事をやらせていただきました。が、咲夜が来てからは私のやることはかなり減りました。

まあ、それでも色々忙しかったですがね、咲夜のメイド修行で。初めのころはそれはもう、目も当てられないほどで……。

まあ、この話はまたいずれしましょう。

さて、やることも無いですし、少し眠りましょう、どごその門番みたく。

あ、最後に一つ、私、今日は男ですよ。

え、今さら?……ですね。

では、おやすみなさい……。

執事の日 後編(後書き)

だ・ぶ・ん、来ちまったよ、ちきしょうめ!

あゝ、もう今年も終わりが近づいてきたなあ、はやいなあ。

そしてやることが少ない執事・・・執事なの？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1458z/>

東方執事物語

2011年12月11日00時51分発行